

新教出版社 バルト・セレクション (全7巻、天野有編訳)

特徴

- ・天野有氏(西南学院大学神学部教授)による全面新訳、詳細な訳注。
- ・ハンデンイで読みやすい文庫判。各巻平均500〜600頁、本体予価1900円。

第1巻…聖書と説教 (第1回配本 2010年3月)

講演

神の言葉への奉仕(一九三四年)、聖書の権威と意義(一九四七年)

説教

和解の行為(寄稿「聖金曜日」(一九二八年四月六日)、貧しきラザロ(ルカ二六19-31)(一九三二年六月七日)、ローマ一五5-13「アドヴェント」(一九三三年二月一〇日)、ルカ五1-11(一九三四年七月一日)、マタイ二15-22(一九三七年一〇月三十一日)、この「世の」生と将来の生(寄稿「イースター」(一九四〇年三月二三日)、私は生きています、そして、きみたちは生きるであろう。(ヨハネ一四19「イースター」(一九五五年四月十日)、不死性(一九五七年春)(パーゼラジオスタジオの放送)、彼と共にいる犯罪人たち(ルカ二三33「聖金曜日」(一九五七年四月一九日)、この方こそがまさにその方である(申命記八18)(一九五七年二月二九日)、……熟慮することを私たちに教えたまえ! (詩編九〇12「受難節(レント)」(一九五八年三月一六日)、私たちの味方であるまさにその人(ルカ二7「クリスマス」(一九五八年二月二五日)、死——しかし、生命!(ローマ六23「イースター」(一九五九年三月二九日)、きみを憐れむ方なる主(イザヤ五四10)(一九五九年二月二七日)、きみは許されている!(エレミヤ三一33「受難節(レント)」(一九六〇年四月三日)、ほんの一瞬(イザヤ五四7-8「イースター」(一九六一年四月二日)、キリストの裁きの座の前で(IIコリント五10「受難節(レント)直前」(一九六三年二月二四日)、きみたち、担いなさい!(ガラテヤ六2)(一九六三年五月一九日)、しかし、きみたち、勇気を出しなさい!(ヨハネ一六33「クリスマス」)、かれらが主を見たときに(ヨハネ二〇19-20「イースター」(一九六四年三月二九日)、イエス・キリストについての証し(寄稿)(一九六八年二月)

第2巻…神学と教会I——「弁証法神学」時代——

聖書の問いと洞察と展望(一九二〇年)、キリスト教宣教の危急と約束(一九二三年)、神学の課題としての神の言葉(一九二三年)、シュライエルマッハーからリッチェルに至る神学における神の言葉(一九二七年一〇月)、プロテスタント教会に対する問いとしてのローマ・カトリシズム(一九二八年三月)、神学における運命と理念(一九二九年)、礼典論(一九二九年)

第3巻…神学と教会II——「キリスト論的集中」時代——

神の恵みの選び(一九三六年)、ユダヤ人問題とこれへのキリスト教的応答(一九四九年)、ルドルフ・ブルトマン——彼を理解するための一試論(一九五二年)、キリストとアダム——ローマ五章による(一九五二年)、神の人間性(一九五六年)、哲学と神学(一九六〇年)、カルヴァン没後四百年に寄せて(一九六四年)、シュライエルマッハーと私(一九六八年)

第4巻…教会と国家I——「赤い牧師」・「弁証法神学」時代から反ナチズム・教会闘争時代へ—— (第2回配本 2010年12月)

イエス・キリストと社会運動(一九二一年)、神の義(一九一六年)、聖書における新しき世界(一九一六年)、社会の中のキリスト者(一九一九年)、神学的公理としての第一誡(一九三三年)、今日の神学的実存(一九三三年)、訣別(一九三三年)、決断としての宗教改革(一九三三年)

第5巻…教会と国家II——反ナチズム・教会闘争時代—— (第3回配本 2011年6月)

神の意志とわれらの願望(一九三四年)、出エジプト記二〇4-6(偶像禁止令)による説教(一九三五年三月二六日)。ナチズム・ドイツでの最後の説教、福音と律法(一九三五年一〇月七日。バルメン教会にてカール・インマー牧師により代読された講演、義認と法(一九三八年)、プラハのプロマートカ教授への手紙(一九三八年)、オランダの「教会と平和」同盟代表者への手紙(一九三八年)、デルクセン牧師(オランダ)への手紙から(一九三八年)、教会と今日の政治問題(一九三八年)、キリスト者の武器と武具(一九四〇年)、スイスからイギリスへの手紙(一九四一年)、ドイツのキリスト者へのクリスマス・メッセージ(一九四一年)、今日焦眉の出来事のためだけのキリスト教会の約束と責任(一九四四年)

第6巻…教会と国家III——戦後の東西冷戦時代——

ドイツ人とわれわれ(一九四五年)、いかにしてドイツ人は健康になりうるか(一九四五年)、二つの往復書簡(一九四五年)、戦後の新建設のための精神的諸前提(一九四五年)、キリスト者共同体と市民共同体(一九四六年)、国家秩序の転換の中にあるキリスト教会(一九四八年)、ブダペストでの討論から(一九四八年)、「鉄のカーテン」の向こう側の改革派教会(一九四八年)、ブルンナーとの往復書簡(1. いかにこれを理解すべきか? 2. 「今日の」神学的実存(一九四八年)、東と西の間にある教会(一九四九年)、きみたち、恐れるな!——ドイツ再軍備に寄せて——(一九五〇年)、信仰の一致における政治的決断(一九五二年)、東ドイツの或る牧師への手紙(一九五八年)

第7巻…福音と文化

「芸術」と「ユーモア」(一九二八/二九年)。「キリスト教倫理学総説」II/2より)、グリューネヴァルトの祭壇画(受肉と磔刑)について——キリスト論との関連で——(一九三三/三四年)。「神の言葉」II/1より)、福音と教養(一九三八年)、創造の世界とモーツァルト(一九四九年)。「創造論」III/2より)、モーツァルトの自由(一九五六年一月)、世界事象における——イエス・キリストの預言の——諸々の真の言葉(一九五九年)、「和解論」III/1より)